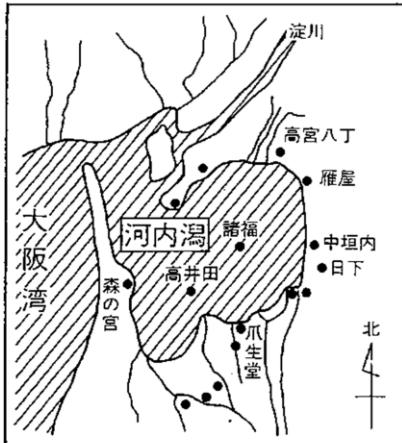


埋蔵文化財 探訪シリーズ REMININ。31話

> 7 <



河内湯の時代の大坂平野と主な弥生時代遺跡(約3000~2000年前の復元図)

は、水辺に広がる低湿地を
利用した水田農耕に適して
いるほか、潟からとれる魚
貝類も豊富だったことで
しょう。水上交通によつて
他の集落へ移動するのにも
便利でした。

中垣內遺跡

(その二)

今から約七千年前、大阪平野には、河内湾と呼ばれる海が深く入り込んでいました。その後、河内湾は、土砂などが積もってどんどん埋められて、河内潟、河内湖と姿を変え、今日の大阪平野のようになりました。本市域は、大阪平野のなかでも低い所にありました。そのため、最後まで水が残り、それが、今はもうありませんが深野池でした。

前期の集落が営まれたころは、ちょうど河内潟の時代にあたり、その海岸線を復元すると図のようになります。本市域のはとんどが水で覆われていました。北向きに角のように飛び出していいる半島が大阪城のあるト町台地です。

潟の周辺では、中垣内遺跡のほかにも各地で集落が営まれていたことがわかつて

埋蔵文化財
探訪シリーズ
REKIMIN。31ほ
シキミン > 8 <

> 8 <

中垣内遺跡

二〇四



中壇内遺跡から出土した直弧文彫り木製品

昭和六十二年七月から
十月份に、大阪産業大学構
内で発掘調査が行われ、
地表下約四・三メートル
の深さから、掘立柱建物
や堅穴式住居などの遺構
が検出されました。

出土した土器から 古墳
時代前期のものと考えら
れ、これまで弥生時代の集
落として知られていた中垣
内遺跡が、古墳時代になっ
てからも、集落が営まれて
いたことがわかる貴重な発

大量的土器のほかにも、素文鏡（直径約二センチ）の銅で作られた鏡で、実際に姿を写す鏡ではあります。直弧文彫り木製品（長さ約二十七センチ、幅約十七センチ）の板に直線と曲線を彫り刻んだもので、どのようになし使われたかは不明、骨製根ばさみ（矢の一端部分で、矢じりを矢柄に固定する道具）、管玉など珍しい遺物が出土しています。これらは、日常使われたものではなく、何か特別な祭祀の時（稻の収穫を祝うとか、惡靈を追い払うなど）に限つて使われていたのではないと思われます。